

0445-03002

出証番号 出証特2001-3008828

【書類名】 特許願

【整理番号】 P06757

【提出日】 平成12年 5月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 C11D 17/04  
B65D 5/54

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社 研究所内

【氏名】 川口 裕次

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社 研究所内

【氏名】 藤田 実智昭

【特許出願人】

【識別番号】 000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100081385

【弁理士】

【氏名又は名称】 塩川 修治

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 016230

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9107591

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 シート状洗剤容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 水溶性シートで個装されたシート状洗剤を積層して収容する容器であって、

外箱の内面に沿うように挿入される印箋部を有し、該印箋部に閉じ状態の蓋の内面が被さり、外箱と印箋部と蓋を防湿性の材料で構成したシート状洗剤容器。

【請求項 2】 前記蓋を外箱にヒンジ結合した請求項 1 記載のシート状洗剤容器。

【請求項 3】 前記蓋のヒンジ結合部を、蓋の天面板と外箱の背面板との交差部の稜線に設けた請求項 2 記載のシート状洗剤容器。

【請求項 4】 前記外箱の開口縁部に易切断部を介して蓋を結合してなる請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載のシート状洗剤容器。

【請求項 5】 前記印箋部に凹状切欠部を備える請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のシート状洗剤容器。

【請求項 6】 前記印箋部に、開封後の再閉蓋時の蓋の縁に係止し得る蓋差込部を備える請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載のシート状洗剤容器。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明はシート状洗剤容器に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

特開平11-124600に記載の如く、コンパクトに個装され実使用において使用量を調整し易く簡便性に優れ、更には使用時に個装袋を切り開いて取出す手間がかからないように、水溶性シートで個装したシート状洗剤がある。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

シート状洗剤を積層して容器に収容した場合、水溶性シートが吸湿や水滴付着によって溶けて個装洗剤同士が貼り付き易い。

【0004】

本発明の課題は、容器の防湿性と水滴混入防止性を向上し、水溶性シートで個装されたシート状洗剤同士の貼り付きを防止することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の発明は、水溶性シートで個装されたシート状洗剤を積層して収容する容器であって、外箱の内面に沿うように挿入される印箋部を有し、該印箋部に閉じ状態の蓋の内面が被さり、外箱と印箋部と蓋を防湿性の材料で構成するようにしたものである。

【0006】

【発明の実施の形態】

図1～図3のシート状洗剤容器10は、複数のシート状洗剤1を積層して収容する。シート状洗剤1は、例えば特開平11-124600に記載されるものであり、水溶性シート1Aで洗剤組成物を個装したものである。水溶性シート1Aとしては、水溶性フィルム、水溶性高分子繊維からなる不織布もしくは織布、又は水溶性フィルムと水溶性高分子繊維からなる不織布もしくは織布の積層シートが好ましい。洗剤組成物としては、例えばEO・PO付加型非イオン界面活性剤を含有する。

【0007】

洗剤容器10は、外箱21と蓋22とからなる容器本体20と、外箱21の内面に沿うように挿入される印箋部30と、外箱21と印箋部30の底部に敷かれる洗剤にじみ防止用底板（不図示）とを有し、シート状洗剤1を例えば30枚積層して収容する。

【0008】

容器本体20は、板紙（コートボール）の内面側に、防湿性の板紙、例えばポリエチレンフィルム、板紙（ライナー）を順に貼合せた素材20Aにて構成されている。そして、容器本体20は、有底直方体状の外箱21の開口縁部に易切断

部 2 3 を介して、有 天 直 方 体 状 の 蓋 2 2 を 結 合 し て い る 。 蓋 2 2 は 、 容 器 本 体 2 0 の 正 面 下 部 の 水 平 易 切 断 部 2 3 A 、 容 器 本 体 2 0 の 左 右 側 面 の 斜 め 易 切 断 部 2 3 B を 介 して 外 箱 2 1 に 結 合 さ れ 、 容 器 本 体 2 0 の 外 箱 2 1 の 背 面 板 2 5 と 蓋 2 2 の 天 面 板 2 6 と の 間 の 稜 線 に 施 し た ヒ ン ジ 結 合 部 2 4 を 介 して ヒ ン ジ 結 合 さ れ て い る 。

## 【 0 0 0 9 】

尚、容器本体 2 0 は、素材 2 0 A の 胴 面 形 成 部 5 1 の 正 面 部 と 左 右 側 面 部 に 上 述 の 易 切 断 部 2 3 を 設 け 、 易 切 断 部 2 3 と ヒ ン ジ 結 合 部 2 4 より 下 の 胴 面 形 成 部 5 1 と 底 面 形 成 部 5 2 に より 外 箱 2 1 を 形 成 し 、 易 切 断 部 2 3 より 上 の 胴 面 形 成 部 5 1 と 天 面 形 成 部 5 3 に より 蓋 2 2 を 形 成 し て い る 。

## 【 0 0 1 0 】

また、易切断部 2 3 は、上下のミシン目 6 1、6 1 に 挟 ま れ る 帯 状 を な し 、 斜 め 易 切 断 部 2 3 B の 各 ミ シ ン 目 6 1 は 、 図 2 ( B ) に 示 す 如 く 、 素 材 2 0 A の 表 裏 に 渡 る よ う に 貫 通 す る Y 字 状 切 れ 目 6 2 を 断 続 的 に 配 列 し た も の で あり 、 切 れ 目 6 2 に 長 辺 6 2 A を 易 切 断 部 2 3 の 延 在 方 向 に 、 一 方 の 短 辺 6 2 B を 水 平 方 向 に 、 他 方 の 短 辺 6 2 C を 鉛 直 方 向 に 配 向 し 、 こ れ に よ り 、 相 隣 る 一 方 の 切 れ 目 6 2 の 長 辺 6 2 A の 端 部 と 他 方 の 切 れ 目 6 2 の 短 辺 6 2 B 、 6 2 C の 端 部 と を 水 平 方 向 と 鉛 直 方 向 の そ れ ぞ れ に お い て つ な ぐ よ う に 素 材 2 0 A を 切 断 可 能 と し 、 素 材 2 0 A に 切 断 時 の 表 層 剥 離 を 生 ず る こ と な く 開 蓋 で き る よ う に し て い る 。 素 材 2 0 A が 紙 か ら な る こ と に よ り 、 易 切 断 部 2 3 の 切 断 性 を 良 好 に で き る 。 尚 、 易 切 断 部 2 3 は 、 帯 状 水 平 易 切 断 部 2 3 A の 中 央 部 に 、 上 下 の ミ シ ン 目 6 1 、 6 1 に 渡 る 切 込 線 を 設 け 、 こ の 切 込 線 が 切 断 開 始 部 6 3 で あ る 。

## 【 0 0 1 1 】

但し、易切断部 2 3 は、帯状であることを必須とせず、また素材 2 0 A の 表 裏 の 片 方 又 は 両 方 で 薄 肉 に さ れ た 非 貫 通 状 の 溝 状 半 切 線 に て 構 成 さ れ る も の で あ っ て も 良 い 。

## 【 0 0 1 2 】

印 箋 部 3 0 は 、 防 湿 性 の 板 紙 、 例 え ば 板 紙 ( コ ー ト ボ ー ル ) の 内 面 に 、 ポ リ プ ロ ピ レ ン フ ィ ル ム を 貼 合 せ た 素 材 3 0 A に て 構 成 さ れ て い る 。 そ し て 、 印 箋 部 3

0 は、四角筒状の胴巻体 3 1 とその下端につながる孔開き底部（不図示）とからなり、外箱 2 1 の内面に沿うように挿入され、胴巻体 3 1 の上部の一部を外箱 2 1 の開口縁部から立上り、閉じ状態の蓋 2 2 の内面が被さって密嵌でき、その前面に凹状切欠部 3 4 を備える。本実施形態では、印箋部 3 0 は、その底部を外箱 2 1 の底部に突き当て、接着剤を介して外箱 2 1 の内面に接着されて固定化される。但し、印箋部 3 0 は、底部を備えることを必須とせず、又は孔なし底部を備えるものとしても良い。

#### 【0013】

また、印箋部 3 0 は、開封後の再閉蓋時の蓋 2 2 の縁に係止し得る蓋差込部 3 5 を備える。本実施形態では、印箋部 3 0 の前面で凹状切欠部 3 4 を区画成形している縁に設けた両側 2 条の切込線 3 5 A、3 5 A に挟まれる舌片を蓋差込部 3 5 としている。

#### 【0014】

洗剤容器 1 0 の使用手順は以下の如くなされる。容器本体 2 0 の易切断部 2 3 を切断し、蓋 2 2 を外箱 2 1 に対して開いて開封する。印箋部 3 0 の凹状切欠部 3 4 に臨むシート状洗剤 1 の外縁部をつまんで該シート状洗剤 1 を容器本体 2 0 から取出す。尚、シート状洗剤 1 は、水溶性シート 1 A により個装されているから、手を汚さずにそのまま洗濯機に投入して使用できる。

#### 【0015】

従って、本実施形態によれば、以下の作用がある。

（請求項 1 に対応する作用）

①容器 1 0 の閉蓋時に、蓋 2 2 は外箱 2 1 の開口縁部から立上っている印箋部 3 0 に嵌合し、且つそれらの外箱 2 1 と印箋部 3 0 と蓋 2 2 が防湿性の材料で構成されているから、箱内への透湿と水滴浸入を遮断する。水溶性シートの吸湿や水滴付着による溶解を回避し、シート状洗剤 1 同士の貼り付きを防止できる。

#### 【0016】

（請求項 2 に対応する作用）

②蓋 2 2 は外箱 2 1 にヒンジ結合されているから、蓋 2 2 を開封した手を離すと蓋 2 2 は直ちに自重で閉じる。これにより、蓋 2 2 が開き続けることによる水

滴浸入機会を減じ、シート状洗剤 1 同士の貼り付きを防止できる。

【 0 0 1 7 】

(請求項 3 に対応する作用)

③蓋 2 2 のヒンジ結合部 2 4 が、蓋 2 2 の天面板 2 6 と外箱 2 1 の背面板 2 5 との交差部の稜線に設けられたから、蓋 2 2 を開けると、外箱 2 1 の背面板 2 5 と容器背面側の壁との間に隙間がないときにも、蓋 2 2 が壁にぶつかることなく、容易に開蓋できる。

【 0 0 1 8 】

(請求項 4 に対応する作用)

④蓋 2 2 は外箱 2 1 との間の易切断部 2 3 を切断するだけで開封完了でき、開封し易い。

【 0 0 1 9 】

⑤易切断部 2 3 はミシン目、半切線等であってこのままでは透湿し易いが、易切断部 2 3 の内側に存在する印箋部 3 0 によりその透湿可能経路を遮断し、シート状洗剤 1 同士の貼り付きを防止できる。

【 0 0 2 0 】

(請求項 5 に対応する作用)

⑥容器 1 0 は、外箱 2 1 及び印箋部 3 0 が形成する収容部にシート状洗剤 1 を収容したとき、外箱 2 1 の開口縁部から立上っている印箋部 3 0 に凹状切欠部 3 4 を備え、収容部を天面側だけでなく側方にも開口している。このため、収容部に上下に積層してあるシート状洗剤 1 の外縁部が凹状切欠部 3 4 に臨み、使用者はこのシート状洗剤 1 の外縁部を容易につまんで取り出しできる。

【 0 0 2 1 】

(請求項 6 に対応する作用)

⑦再閉蓋時の蓋 2 2 の縁を印箋部 3 0 の蓋差込部 3 5 に係止できる。従って、蓋 2 2 の再封止の確実を図り、シート状洗剤 1 同士の貼り付きを防止できる。

【 0 0 2 2 】

尚、容器本体と印箋部の構成素材において、プラスチックフィルムは、板紙の間にサンドイッチされ、又は板紙の内面もしくは外面に貼られるものであっても

良い。また、印箋部、底板は紙に限らず、プラスチック等からなるものであっても良い。

【 0 0 2 3 】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、容器の防湿性と水滴混入防止性を向上し、水溶性シートで個装されたシート状洗剤同士の貼り付きを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図 1 は洗剤容器の開封状態を示す斜視図である。

【図 2】

図 2 は洗剤容器の開封前状態を示す斜視図である。

【図 3】

図 3 は洗剤容器の再閉蓋状態を示す斜視図である。

【図 4】

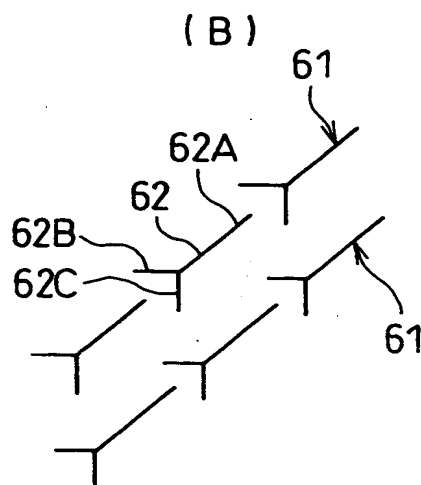
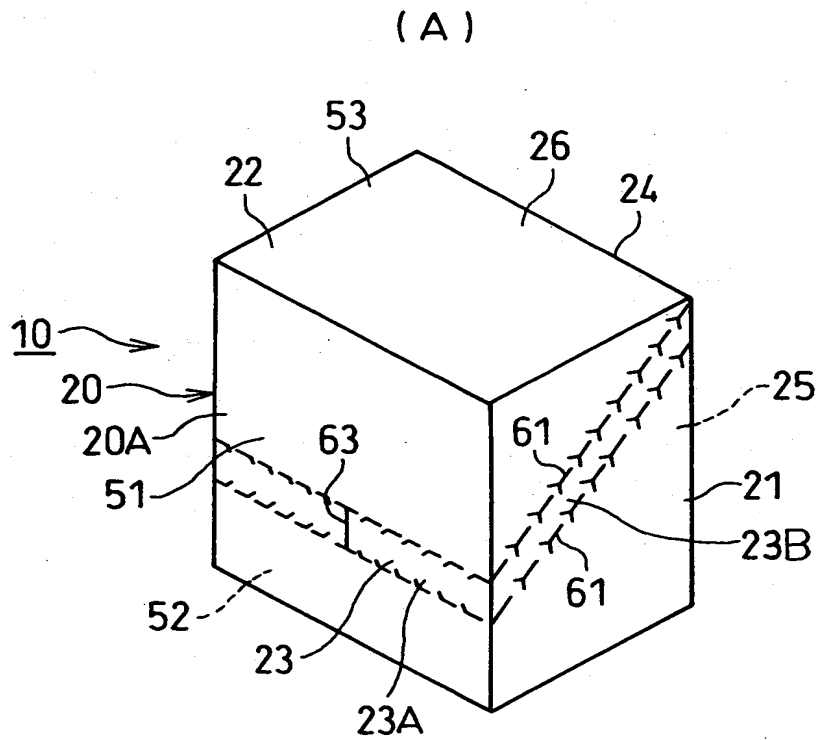
図 4 はシート状洗剤を示す斜視図である。

【符号の説明】

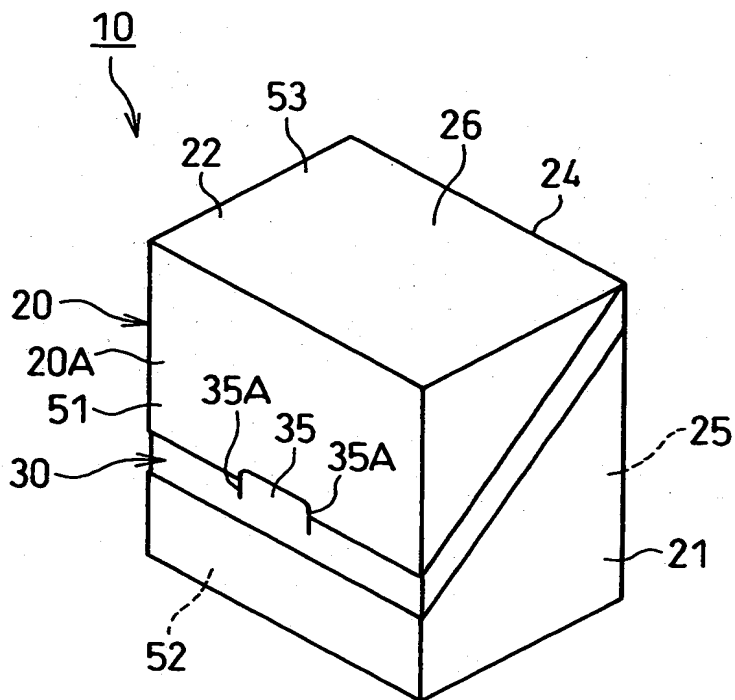
- 1 シート状洗剤
- 1 0 洗剤容器
- 2 1 外箱
- 2 2 蓋
- 2 3 易切断部
- 2 4 ヒンジ結合部
- 3 0 印箋部
- 3 4 凹状切欠部
- 3 5 蓋差込部



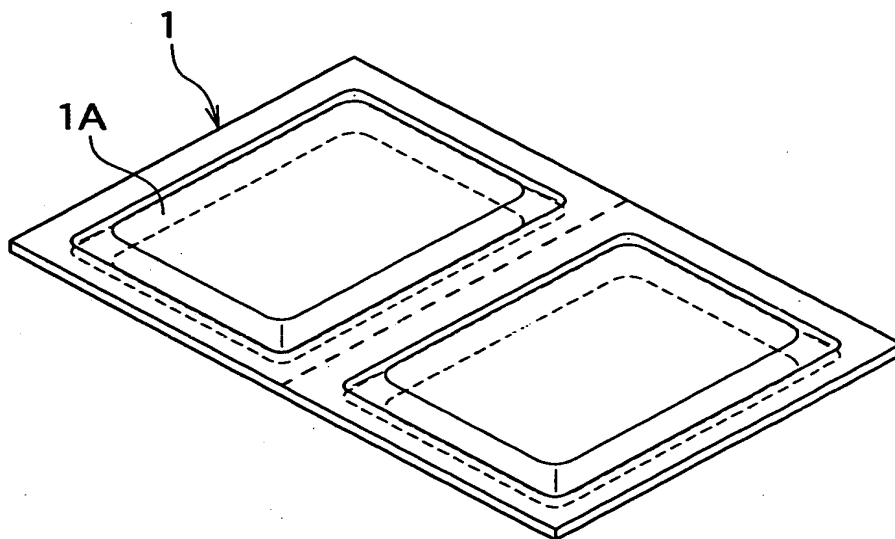
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 容器の防湿性と水滴混入防止性を向上し、水溶性シートで個装されたシート状洗剤同士の貼り付きを防止すること。

【解決手段】 水溶性シート 1 A で個装されたシート状洗剤 1 を積層して収容する容器 1 0 であって、外箱 2 1 の内面に沿うように挿入される印箋部 3 0 を有し、該印箋部 3 0 に閉じ状態の蓋 2 2 の内面が被さり、外箱 2 1 と印箋部 3 0 と蓋 2 2 を防湿性の材料で構成したもの。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000000918]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号  
氏 名 花王株式会社